

問1 かつて深刻な大気汚染などの公害を経験しましたが、その克服の歴史を活かし、現在はリサイクル産業などを集積させた「エコタウン」事業を推進している地域があります。九州地方の北部に位置し、官営八幡製鉄所の稼働以来、日本の工業を支えてきたこの都道府県はどこですか。（2022年 滋賀公立入試 類似）

1. 福岡県 2. 兵庫県 3. 岡山県 4. 広島県

問2 鹿児島県の自然環境と産業の特色について説明した文として、適切なものはどれですか。（2024年 東京都公立入試 類似）

1. 薩摩半島と大隅半島に挟まれた湾の中に桜島という活発な火山があり、周辺の台地では肉用牛や豚の飼育が盛んに行われている。
2. 県内の大部分が盆地で構成されており、火山灰の肥沃な土壌を活かして、ブランド米の生産が県内農業の収益の柱となっている。
3. 九州山地から流れる急流を活かした水力発電が盛んで、その安価な電力を利用して沿岸部ではアルミニウム工業が発達している。
4. 温暖な気候を活かした促成栽培が中心であり、ピーマンやなすの生産量が日本一である一方、畜産業は小規模に留まっている。

問3 鉄道の営業距離が約423kmあり、2004年には北西から九州新幹線が開通した鹿児島県の産業や交通の特徴について、正しい説明はどれですか。（2020年 東京都公立入試 類似）

1. 西側の薩摩半島には石油備蓄基地が立地し、周辺には鉄道も通っている。
2. 東側の半島に石油備蓄基地が集中しているため、西側の薩摩半島には主要な産業施設がない。
3. 県庁所在地の人口は約20万人であり、公共交通機関としてのバスや路面電車はほとんど普及していない。
4. シラス台地は農業専用の地域として保護されているため、住宅地としての開発は禁止されている。

問4 佐賀県は、九州地方の中でも小麦の収穫量が非常に多いことで知られています。この背景として、夏の米の収穫が終わった後の水田を有効に利用して小麦を栽培する農法を何と呼びますか。（2019年 徳島公立入試 類似）

1. 水田裏作 2. 施設園芸農業 3. 促成栽培 4. 高冷地農業

問5 沖縄県は九州の南方に位置し、日本の他の地方と比較して緯度が低いという特徴があります。このような地理的条件によってもたらされる「年間を通じて温暖な気候」や「美しいサンゴ礁」といった自然環境を最大限に活用し、県の経済において最も高い割合を占めている産業はどれですか。（2026年 福岡公立入試 類似）

1. 農業や漁業を主体とする第一次産業
2. 重化学工業や加工貿易を主体とする第二次産業
3. 観光業やサービス業を主体とする第三次産業
4. 先端技術の開発や情報通信に特化した第四次産業

問6 九州地方の各県について述べた統計資料において、地熱発電量が「879」と他の県に比べて突出して高く、人口密度が約181.7人/km²である県に該当するものとして、最も適切なものを選択してください。（2020年 和歌山公立入試 類似）

1. 大分県 2. 鹿児島県 3. 福岡県 4. 宮崎県

問7 九州地方南部に位置する鹿児島県では、火山噴出物が堆積して形成されたシラス台地が広く分布しています。この土地の「水はけが良すぎる」という性質を背景として、古くから稲作が制限されてきた代わりに発達した、鹿児島県の農業産出額の半分以上を占める主要な農業部門は何ですか。（2024年 山口公立入試 類似）

1. 近郊農業による野菜栽培 2. 広大な土地を利用した畜産 3. 温暖な気候を活かした果樹栽培 4. 豊富な地下水を利用した稲作

問8 大分県に位置する別府などの地域が、日本を代表する温泉地として多くの観光客を集めている理由について、自然環境と社会活動の関連を説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2022年 沖縄公立入試 類似）

1. 火山活動によるマグマの熱が地下水を温め、豊富な温泉資源として観光や文化に活用されているため。
2. カルデラ地形の内側に広がる平坦な土地を利用して、避暑地としてのホテル建設が進められたため。
3. サンゴ礁が発達した浅瀬の海岸線を活かし、年中温暖な気候を利用した海洋レジャーが発展したため。
4. 火山灰が降り積もった水はけの良い土地を活かし、大規模な果樹園を中心とした観光農業が行われているため。

問9 那覇市の気候統計における気温と降水量の特徴について、札幌市、松本市、高松市、福岡市と比較した記述として正しいものを選択してください。（2024年 栃木公立入試 類似）

1. 梅雨や台風の影響により年間降水量は多い傾向にあるが、海洋の影響を受けるため、気温の年較差は内陸の松本市より小さい。
2. 日本の最南端に位置するため、年平均気温は福岡市よりも高いが、年間の総降水量は瀬戸内の高松市よりも少ない。
3. 1月と7月の月平均気温の差が松本市よりも大きいことが、亜熱帯に近い那覇市の気候の大きな特徴である。
4. 南西諸島に位置するため、1月の平均気温が札幌市や福岡市を下回る月があり、冬の乾燥が非常に激しい。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 福岡県	福岡県の北九州工業地帯は、高度経済成長期に深刻な公害問題を抱えましたが、市民や企業の努力によって克服しました。その経験から、現在は資源のリサイクルを進める「エコタウン」の取り組みが世界的に評価されており、環境共生型の都市づくりが進められています。
問2	答え 1 薩摩半島と大隅半島に挟まれた湾の中に桜島という活発な火山があり、周辺の台地では肉用牛や豚の飼育が盛んに行われている。	鹿児島県は薩摩半島と大隅半島という二つの大きな半島を持ち、その間にある鹿児島湾（錦江湾）には現在も活発に活動を続ける火山である桜島が位置しています。県内には火山活動に由来するシラス台地が広く分布しており、その土地条件に適応する形で肉用牛や豚の飼育頭数が全国トップクラスになるなど、畜産業が非常に盛んなのが特徴です。促成栽培やピーマンの生産で知られるのは主に宮崎県や高知県などの事例です。
問3	答え 1 西側の薩摩半島には石油備蓄基地が立地し、周辺には鉄道も通っている。	鹿児島県の西側に位置する薩摩半島には、国家石油備蓄基地（喜入基地など）が立地しており、エネルギー供給の拠点となっています。交通面では2004年の九州新幹線開通により福岡方面との時間が短縮されたほか、県庁所在地である鹿児島市（人口約61万人）では、シラス台地上の住宅地と都心を結ぶバス網や、環境に配慮した路面電車が市民の足として機能しています。
問4	答え 1 水田裏作	佐賀平野を中心とする地域では、温暖な気候と水利を活かして、一年の間に同じ耕地で二種類の異なる作物を栽培する二毛作が行われています。米の収穫後、冬から春の期間に小麦などを栽培することを「水田裏作」と呼び、これが佐賀県において高い小麦の収穫量を支える要因となっています。
問5	答え 3 観光業やサービス業を主体とする第三次産業	沖縄県は低緯度に位置するため、冬でも気温が下がりにくく、一年を通して温暖な気候に恵まれています。この気候やサンゴ礁が広がる海などの豊かな自然資源は、観光客を引きつける大きな魅力となっています。その結果、宿泊業や飲食業、小売業などのサービス業を含む第三次産業が、県内の就業者数や生産額において極めて高い比率を占める産業構造となっています。
問6	答え 1 大分県	大分県は別府温泉や由布院温泉に代表されるように火山活動が活発な地域であり、その熱エネルギーを利用した地熱発電の発電量が国内で最も多いことが特徴です。統計資料に示された高い地熱発電量は、この地理的特性を反映しています。
問7	答え 2 広大な土地を利用した畜産	鹿児島県に広がるシラス台地は水持ちが悪く、大規模な水田稲作には適していませんでした。そのため、広大な土地を有効に活用できる畜産業が発展し、現在では肉用牛、豚、鶏の飼養頭数・羽数が全国屈指の規模を誇る日本代表的な畜産県となりました。統計上でも農業産出額の約65%を畜産が占めています。
問8	答え 1 火山活動によるマグマの熱が地下水を温め、豊富な温泉資源として観光や文化に活用されているため。	大分県は九州地方の火山帯に位置しており、地下のマグマの熱によって地下水が温められ、日本一の湧出量を誇る温泉地が形成されました。この火山活動という自然環境が、別府温泉などの観光産業や、地獄蒸しといった独自の生活文化の基盤となっています。他の選択肢にあるサンゴ礁（沖縄など）やカルデラでの放牧（阿蘇など）は、大分県の温泉資源の説明としては適切ではありません。
問9	答え 1 梅雨や台風の影響により年間降水量は多い傾向にあるが、海洋の影響を受けるため、気温の年較差は内陸の松本市より小さい。	那覇市は黒潮（暖流）の影響を受けるため、冬でも温暖で、1年を通じた気温の変化が緩やかです。そのため、内陸部特有の気候を持ち気温差が激しい松本市と比較すると、1月と7月の気温差は小さくなります。降水量については、台風の進路にあたることや梅雨の影響で、全国的に見ても多い部類に入ります。福岡市よりも平均気温が低い、あるいは高松市よりも年降水量が少ないといった記述は、実際の統計上の傾向とは異なります。